

フードバンク活動におけるリスクマネジメント

Risk management in the Food Bank Activities

原田佳子^{※1}・糸山智栄^{※2}・三田善雄^{※3}

Yoshiko HARADA, Tie ITOYAMA, and Yoshio MITA

1. はじめに

フードバンクに関する明確な定義があるのではないが、食品ロスを食品関連企業や個人から無償で寄贈してもらい、それを必要とする人を支援する団体に無償で分配する活動のことと一般的に解釈されている。フードバンクは1964年にアメリカで始まり、当初は、先進国だけであったが、途上国でも活動がされるようになり、現在ではグローバルな活動となっている。

現在、わが国には、40ヶ所以上のフードバンク活動がある。2000年に東京都台東区でセカンドハーベストジャパンがフードバンク活動を開始し、2003年には、フードバンク関西、2007年頃から、名古屋、山梨、沖縄、東北、広島と続き、活動主体数が増加していった。

農林水産省のサイト（2015年2月19日）には、フードバンクの活動に関して、組織運営関係、支援者関係、受益者に対しての主な課題が掲載されている。

一方、食品ロス削減の観点から、国はフードバンク活動に期待を寄せている。しかし、事務所を構え、食品を保管管理する倉庫を持ち、専従職員を雇用するなど、組織的基盤を構築し活動を行っている主体もあれば、自宅を事務所兼倉庫に手弁当で活動している主体も多くあり、実態は千差万別である。しかし、フードバンク活動は、支援者、受益者、地域社会との強い信頼関係の上に成り立っている。特に、食べ物という、安心安全が第一義である物を取り扱

う活動には、より緻密な配慮が必要である。そこで、本研究は、急速に数が増えつつあるフードバンク活動が円滑に進展するよう「フードバンク活動におけるリスクマネジメント基準」の作成を目的とする。

2. 方法

研究メンバー各自が文献をレビューしまとめた。

3. 研究報告

① アメリカでフードバンクが始まった理由

1967年世界で最初にアメリカでフードバンク活動がスタートした。その社会的背景には、脆弱な社会保障制度がある。アメリカの社会保障制度は、その成立と発展の過程において、個人主義や地方分権主義の伝統と深くかかわり続けてきた。個人主義の伝統の影響は、社会保障をめぐる考え方において絶えず自助が強調されている。貧困対策、公的年金制度、社会保障制度、医療保障制度の内容に格差を設ける方式がとられているのである。

当然、貧富の差は激しく満足に食事をするのできない生活困窮者が多数存在する。

一方、市民活動は盛んであり、一部脆弱な社会保障制度をカバーしていると考えられる。

※1 美作大学生活科学部食物学科 教授・修士（マネジメント）

※2 NPO法人フードバンク岡山 理事長

※3 NPO法人フードバンク岡山 理事

Prof., Food Department, Mimasaka Univ., M. Management
Board chairman Food Bank activities
Director Food Bank activities

こういった社会の背景が、アメリカで最初にフードバンク活動が始まった主な理由の一つであると考える。

② 食品ロスとは

農林水産省のウェブサイトによると、食品ロスとは、食べられるのに捨てられてしまう食品のことである。すなわち、食べ物として、衛生的にも栄養的にも問題がないのに関わらず、市場価値がないため廃棄される食品のことを言う。

③ 食品ロスの現状

平成 23 年度の農林水産省の統計では、わが国の 1 年間の食品廃棄物 1,760 万トンのうち、食品ロス（可食部分）は、500～800 万トンあるとされている。食品ロスは、大きく分けて食品関連事業者の事業系廃棄物と一般家庭の家庭系廃棄物がある。それぞれ前者は 300～400 万トン、後者は 200～400 万である。

④ 食品ロスが発生する理由

食品メーカーや小売店、飲食店での食品ロス発生理由：食品メーカーでは、パッケージの印刷ミスや破損、規格外などの商品。ロットの関係で余剰に生産されたなどの理由で廃棄される。小売店では、生鮮食品や弁当、総菜など売れ残った商品や期限切れで販売できなくなった商品。新商品の登場や放送などの規格が変更された場合の古い商品は処分される。飲食店では、客が食べ残した料理が食品ロスの多くを占める。また、メニューに記載されている料理は、いつでも客のオーダーに対応できるよう、あらかじめ仕込が必要となるが、客に提供できなかった仕込み済みの食材や料理は処分される。

⑤ 家庭での食品ロス発生理由

過剰廃棄、直接廃棄、食べ残しなどが理由である。過剰廃棄とは、野菜の皮を厚く剥き過ぎたり脂身の部分などを調理せずに廃棄することである。通常食わずに廃棄する野菜や果物の皮や魚の骨などは、過剰廃棄には含まない。本来食べられる部分まで過剰に取り除いてしまうことをいう。直接廃棄は、冷蔵庫などに入れられたまま調理されず、食品として食卓に上がらず廃棄されることである。直接廃棄の原因として、賞味期限と消費期限が正しく理解されてい

ないことも考えられる。食べ残しとは、食事で、料理・食品として提供されたもののうち、食べ残して廃棄した物を言う。

⑥ 食品ロスの処分

農林水産省食品廃棄物等の利用状況（平成 23 年度推計）によると、事業系廃棄物 715 トンのうち、335 万トンは飼料化、肥料化、エネルギー等で再利用され、残りの 370 万トンが焼却・埋め立てされる。家庭系廃棄物 1,140 万トンのうち、62 万トンは肥料・エネルギーとして再利用され、残りの 952 万トンが焼却・埋め立てされる。わが国は、国土が狭いため、ほとんどの食品ロスは焼却処分される。焼却処分は、多くのエネルギーを要し地球温暖化ガスを発生させる。

4. まとめ

「フードバンク活動におけるリスクマネジメント作成」に当たり、研究メンバーで議論した。作成に当たっては、食品ロス、フードバンクの文言の意味を明確にする必要がある、さらにフードバンクの存在意義を明確化する必要があるとの共通見解に至った。現在の活動から、その存在意義は、生活困窮者救済、食品ロス削減に二分すると考えられ、それぞれについて存在意義を問う必要がある。そこで、まず始めにアメリカでフードバンク活動が何故始まったのかを明らかにし、食品ロスの意味と日本の実情及び日本のフードバンク活動に関してまとめた。

5. 考察

市民活動であるこの活動は、必然的に社会的にその存在が認識され承認されて活動を継続できると考える。そこで、今後の研究で「フードバンク活動におけるリスクマネジメント作成」に当たり、フードバンク活動の存在意義を明確にする必要がある。

参考文献

1)アメリカの社会保障制度

http://homepage2.nifty.com/087480/b.cus_syakaihosyou.htm

[アクセス日 2015/02/26](#)

2) 保坂直達 『資本主義とは何か』 桜井書店

3) 農林水産省：食品ロス削減に向けて～「もったいない」を取り

戻そう！～

http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/pdf/09

02shokurosu.pdf アクセス日 2015/03/08

4) 三菱総合研究所：平成 21 年度フードバンク活動実態調査